



Kazé



ルヴァン便り No.15
2023.6

2023年 ルヴァン美術館 企画展

「西村八知 没後10年 西村八知の美の散歩 八知の作品と彼が愛した画家たち」 同時開催 西村光恵（伊作夫人） 母の手仕事 妻の手すさび



「街と少女」 西村 八知

2023年6月10日（土）～11月5日（日）

10:00～17:00 水曜日休館、8/1～9/15は無休

おとな 800円 大高 600円 中小 400円

15名以上団体割引 身障者と介助者割引あり

問合せ 電話 0267-46-1911（ルヴァン美術館）

ルヴァン美術館初代館長 西村八知（1922-2012）は、彼の美術への愛を多くの人と分かち合えるよう私財を投じて1997年にルヴァン美術館を設立しました。幼いころから絵を描き、長じてからは父西村伊作が創立した学校文化学院で美術を教え、1988年から2007年まで同校で校長をつとめました。美術作品や作家たちを友人や恋人のように慈しみをもって語る人間味あふれる彼の美術史の授業は生徒たちに人気で、生涯を通じて制作した絵画、テラコッタ、パピエコレなどの作品も、彼のやさしい言葉で語られた美の哲学エッセーとともに作品集にまとめられています（『ユーロペ』『夕暮れの散歩』）。2010年の企画展のあいさつ文には、彼の自然体で美術を愛するやさしさが表れています。

「ぼくがなぜ絵を描いたり、好きな絵や彫刻を持ったりしているのか？それはただ楽しいからで、何の芸術的な意味もない。好きだからというのは、友達や恋人みたいなもので理由なんかない。ぼくの好きな芸術家でミケランジェロとかピカソとかもいるけど、あまり偉い芸術は肩が凝ったりする。だからぼくのコレクションで、ぼくの知らない無名の人の絵もある。ぼくは理由などなく、好きなものに手を出す」

西村八知の没後10年の節目、2023年の企画展では西村八知の作品とコレクションを展示し、八知の「美の散歩」にお誘いします。美しい自然を眺めたり好きな友人と語らうように、肩の力を抜いて美術作品をお楽しみください。また本年は西村伊作の妻、八知の母である西村光恵による子供服、日本画、陶芸などの手仕事と手遊び（てすさび）の作品をご紹介します。破格の自由人伊作に嫁ぎ9人の子供を育てた光恵は、震災や戦争で暮らしが激変しても洋裁や西洋料理を学び、創意工夫と創作を楽しみながら生きました。「生活を芸術として」—西村伊作の美学を受け継いだ妻光恵と息子八知のすなおな美との向き合い方をご覧ください。



パピエコレ 西村 八知



メダイヨン 西村 八知



「軽井沢にて」 西村 八知



「光恵肖像画」
ソノ・西村ベガート



「愛らしい子供服」
西村 光恵著 1922

西村伊作旅行日記 (14)

ソルトレークシティ ⇒ ロスアンゼルス ⇒ サンフランシスコ

西村伊作は明治 42(1909) 年、25 才の時、世界一周の旅に出ている。その行程は横浜を出港しアジア各港を經由しイタリア・ナポリで下船。その後、スイス、フランス、英国、オランダ、ドイツを巡り、さらに米国に渡り大陸を横断しサンフランシスコから帰国の途についている。

この旅行記は西村の日記としては唯一のもので貴重であるが、句読点などは無く、また走り書きに近い部分も少なからずみられる。そのため、下記の文中には筆者の判断で句読点を挿入し、判読困難な文字は○とされている。

● 6/25

スタンダード プールマンカーの寝台が売り切れのためトーリストと云ふ車への。これは二等室と云ふべきもので藤製のこしかけである。寝台は○○な仕掛けである。そして値は半分である。藤の椅子は夏はずしく、却つて上等のビロードの椅子より心地がよい。

朝起きるとデザート平原を走っている。此地はデザートにてカクタスの種の木と一尺計りの草か木か○○れぬ様なもの計り一面に生へて居る。土が○の様ではほこりが立つ。暑い事甚だしい。日中より午後八時迄は車中に○へ○くハンカチを水にぬらして額にかぶせて暑さをしのいで、日が入つて十時頃より少しずしくなつた。夜は甚涼しい。よくねむられる。

● 6/26

朝は涼しい。ロスアンゼルスへ八時に着した。停車場に下りて真子が来て居らぬかと見まはして居る所へ真子がやつて来た。そして真子の経約・で日本人の宿に入つた。日本人の部落があつて一ブロック皆日本人である。凡ての商店○や湯や洋服や料理や一切日本人がやつて居り銀行もあり○○○もあり何でも日本のものを売る店もある。丸で日本へかへつた様である。此地の白人料理店などは日本人を客にせぬとかいて居つたが、どこへ行つても別に排斥せられなんだ。但し不潔不丁歳な風俗で行くやつは排斥せられるのあろう。ずい分変てこなやつが多く居る。上等社会の人は皆無と云つてもよい。真子の宿つて居つたミツシヨンの家へ行つて見た。そこの牧師にも遇つた。此前には日本の学生（但し労働しつつある）が多くて○つて居た。ロスアンゼルスは塵の多い町である。そして日中は甚だ暑い。

ロスアンゼルスは賑やかな町である。此○部は至る所電車が○しつてあつて、山の方海岸の方至る所別荘的の家がある。彼のバンガローと称する家で中々面白い建物がある。

● 6/27、 6/28～

日本趣味が多く建築や庭園に應用されてある。日本の○○が家の入口の両側に植木鉢となつて○へて居るのを多く見る。日本趣味の應用と云つても彼等は日本の渋味を少しづつ知るようになつたらしい。日本の○○○○な所をよろこんで居る。決して日本人が輸出品として拵へて居る○の画のある陶器やゴテゴテしたいやらしい○○外国向の趣味は彼等は今よろこんで居ないらしい。

● 7/2

ロスアンゼルス発。真子と二人でトーリストカーに乗りサンフランシスコへ向かう。海岸を夕方通るとき、月が丸くさへて居て海へうつり甚きれいであつた。

● 7/3

朝、サンフランシスコの向へ側のオークランドへ着。そこより汽船にて〇しを〇りサンフランシスコの町へ着。市一流のホテル セントフランシスへとまる。大きな高い建物であるがあまり大きすぎて却ってらしくない。

サンフランシスコの町は地震後立派な建築が出来たが、まだまだ破壊した家がこのつて居る。ポンペイを見る様な所もある。此地は甚冷しい。ロスアンゼルスで衣て居た衣服では寒くて仕方がない。町は冷たい風がヒューヒューふいて居る。

● 7/4

日曜である。真子と共に、真子の友人を訪ねた。そして日本の宿へ行く事をすすめられて、日本人の宿へかはつた。所が凡て不便でうすぎたなくて、そして宿料が甚高いが仕方がない。一ぱんとまる。

● 7/5

汽船が桑港を十日に発する報。それ迄どうして過さうかと色々心配して居たが、とうとうマウント・タマルパスへ行く事にきめた。スーツケースを一つさげて宿をとび出し、〇しを〇り汽車でミルバレーと云ふ所へ来てそこでオールドシンなどを見た。此日はフォース・ジュライと云ふて米国際〇祭の日で多くの人が遊びに出る。そして此ミルバレーと云ふ別荘村でも色々催しものがあつて若い人等はインディアンの風をし顔を赤くぬり〇な着物を着子供らもそれぞれ変てこな風をして丁度日本の祭りと同じ様な事をやつて居つた。ミルバレーでしばらく遊び今度は山を登る変てこな汽車でマウント タマルパスを昇る、まがりくねつた鉄道をのぼつて行くと景色が色々に変化する。木の中を通り〇の上を渡り山の頂きに出でるかと思へば又木の中に入る。サンフランシスコや其外四方の景が出没して面白い。雲は下の方になびいて居る。海の船も点の如く見ゆる。鉄道の〇〇〇方は主に砂でカーブのきつい事甚だしい。頂上・タバーン オブ タマルパスと云ふ一軒の宿がある。そこで一ぱんとまる。



備考

真子：西村伊作の次弟 マルコ。

真子は当時ロスアンゼルスの高校に留学していた。

サンフランシスコ地震：1906年4月に発生したマグニチュード7.8の大地震。

(西山修司)

2023年度 ルヴァン美術館のご案内

6月10日(土)～11月5日(日) 10:00～17:00
水曜日休館(8月1日～9月15日は無休)

イベント

<プレオープン>

4月29日(土)～5日(日)

<ローズフェスティバル>

10:00～17:00 庭のバラが見頃です。美術館ご入館の方にはカフェ割引

6月17日(土)～7月2日(日)(水曜日休館日)

<秋のアートフェスティバル>

10:00～17:00 美術館入館無料 小学生にはスケッチブックとクレヨンプレゼント

10月8日(日)

ルヴァン美術館 夏のコンサート

- | | |
|-----------------------------------|----------|
| ①山口佳子ソプラノコンサート(第3回) | 7月30日(日) |
| ②近藤和花ピアノコンサート(第15回) | 8月6日(日) |
| ③寺田悦子・渡邊規久雄/四手連弾ピアノコンサート(第5回) | 8月10日(木) |
| ④ボサノバ・サパトス/木村 純・三四郎(第19回) | 8月12日(土) |
| ⑤Concerto di Due 2人のコンサート | 8月19日(土) |
| ⑥Karuzawa Hilltops カントリーミュージック軽井沢 | 8月22日(火) |
| ⑦戸室 玄ピアノコンサート(第3回) | 8月26日(土) |

入場料:②④⑥⑦ 一般:3,000円 中学生以下:1,500円 未就学児:無料 要予約

①③⑤ 一般:4,000円 中学生以下:2,000円 未就学児:無料 要予約

時 間:①②③④⑦ 開場16:00 開演16:30 美術館15:00閉館 カフェ16:00ラストオーダー

⑤ 開場15:30 開演16:00 美術館14:30閉館 カフェ16:30ラストオーダー

⑥ 開場14:00 開演14:30 美術館13:00閉館 カフェ16:30ラストオーダー

アトリエルヴァン ワークショップ

<陶芸教室>

7月13日(土)・14日(日) / 8月12日(土)・13日(日) / 9月16日(土)・17日(日)

講師:森田高正(陶芸家 アトリエ陶のもり)

時間:10:30～12:00 / 14:00～15:30 (各回8名) 参加料:3,000円(材料費含)

内容:はじめての方でも楽しめる陶芸教室。午前はお鉢など深い器を、午後はお皿など浅い器を作ります。連続受講できます。

<夏休み染めの実験教室>

8月7日(月)～8日(火)

講師:立花万起子(ルヴァンスタッフ 元文化学院教員)

時間:11:00～12:00 / 14:00～15:00 (各回4名) 参加料:ハンカチ2,000円 ストール3,000円(材料費含)

内容:お子様向けの染色体験教室。ルヴァンの庭の植物をつかって絹のハンカチを染めます。大人の方は絹のストール染めもできます。

<木工教室>

8月14日(月)～17日(木)

講師:永島秀之(木工作家 木工房 雑木ぞうきりん)

時間:10:00～ / 11:00～ / 13:00～ / 14:00～ / 15:00 (各回4名) 参加料:1,000円(材料費含)

内容:はじめての方、小さいお子さんも楽しめる木工教室。鳥の巣箱をつくります。

<ウィンターオーナメントづくり>

10月7日(土)

講師:大谷 香(色彩の工房主宰)

時間:10:30～12:00 / 14:00～15:30 (各回8名) 参加料:3,000円(材料費含)

内容:ルヴァンの庭でとれる素材、モミの枝や木の実、ドライフラワーを使ってオーナメント(スワッグ)をつくります。

アトリエルヴァン ギャラリー展示

<ゆう風舎「キルトで蘇るハイジの世界展」>

8月19日(土)～22日(火)

主催:ゆう風舎 <http://yufusya.com/>

時間:10:00～17:00 最終日8月22日は15:00まで 入場無料

内容:2020・21年に「名作絵本を絵キルトで」というコンセプトのもと、出版ワークスより「ハイジ」上下巻が発刊されました。ヨハンナ・シュビリ原作の世界的な名作『アルプスの少女ハイジ』が「絵キルト」で描かれており、その原画展を開催します。

<ISHII CLASSIC GALLERY>

8月25日(金)～27日(日)

主催:ISHII ASSOCIATES 石井義興

時間:8月25日 11:00～17:00 8月26日・27日 10:00～17:00 入場無料

内容:石井義興のThe Hyper Print Art、クラシック音楽家のサイン付き写真等の販売、石井文子のKARIN JEWELRY、武田範芳 - ル・サロン(フランス政府展)金・銀・銅賞ジュビリー賞等受賞作家 - の絵画の販売。

※コンサート・イベント・ワークショップは開催予定が変更になる場合がございます。ご了承下さい。

問い合わせ・予約はルヴァン美術館まで 0267-46-1911

イベント内容詳細はウェブサイトでご確認ください。



ルヴァン美術館: 〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢長倉957-10 Tel.:0267-46-1911 Fax.:0267-46-1910
東京事務所: 〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-14 Tel.&Fax.:03-3401-8896 <https://www.levent.or.jp>